SR使いがシンクロ次元に憑依転生する話

サイヤ

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ＳＲＷＷを使っていた高校生が気付いたらＡＲＣ―Ｖのシンクロ次元に居てユーゴに憑依して居た……

彼は次元戦争や覇王竜を止められるのだろうか……

目次

第1話 …… 1
第2話 …… 3

第1話

「・・・」
　俺はとある事故にあいこの世界に転生していた……アニメのキャラクターとして…
「ユーゴ!どこに行ってたの!?早く帰るわよ!」
　少女はそう言ってユーゴと呼ばれた少年の腕を引っ張って帰ろうとした
「あ、ああ!わかったよ」
「?……とりあえず家に帰りましょう」
　そして家に帰宅し始めた

「なあ、リン」
　俺は少女に声をかけた
「どうしたのユーゴ?」
「いや、やっぱなんでもない……」
「?変なユーゴ」
(この世界は遊戯王ＡＲＣ―Ｖのシンクロ次元だよな……だったらやるべきことは一つ……アカデミアからリンを守り次元統合を阻止するしかないな……俺が覇王になってしまう前に……)
　ユーゴはそう考えていた
「あ、俺ちょっと部屋でデッキ弄ってくる」
　ユーゴはリンにそう言って席を立った
「……わかったわ……夕飯ができたら呼ぶわ」
　リンはそう言った

「確か俺の前世に使ってたデッキがここに仕舞って置いた筈だよな……お、あった」
　ユーゴはそう言って棚を探り始め、すぐに見つけた
「アカデミアに対抗するにはこのカード達を使うしか無いよな……」

彼はそう呟き手元には上下の色が違うカード……ペンデュラムモンスターカードやＳＲのサポートカードが握られていた……

「……《緊急同調》《サイクロン》これは2枚ずつあるけどこれはサイクロンだけサイドで緊急同調は抜いて良いなそしてこれを2枚ずつと入れ変えてっと……後は《ヒドゥン・ショット》は2枚のうち1枚残してもう1枚は《ツイン・ツイスター》1枚と入れ替えよっと後はダイスロールバトルは……3枚も合ったのか……これは1枚にして後の二枚は《神の宣告》と《神の警告》にしよう…ＯＭＫガムは3枚から1枚にして《ガスタの神裔　ピリカ》を入れて《スターライト・ロード》と《エフェクト・ヴェーラー》を足してっと……こんなもんだな」

そう言ってユーゴはメインデッキとサイドデッキを仕舞い今度はエクストラデッキを取り出し

「エクストラは……《クリアウィング・ファスト・ドラゴン》と《スターダスト・ドラゴン》《ミストウォーム》とかを足してっと……こんなもんだな」

ユーゴがエクストラデッキを完成させると…ドアをノックする音が聞こえた

「ユーゴ?ご飯できたわよ?」

リンはそう言ってドアを開けようとした

「おう……今行く!」

ユーゴはデッキをホルダーに入れ部屋を出た……

Ｔｏ　Ｂｅ　Ｃｏｎｔｉｎｕｅｄ

第2話

「クソッ!まさか今日だなんて、早くリンを見つけ出さないと……」
ユーゴは焦っていた……リンがアカデミアのユーリに攫われそうになっていたからだ
「待ってろよリン!」
ユーゴはそう言ってD・ホイールを加速させた

「さーて、どこに行ったのかな?」
フードをかぶった少年は付近を探っていた
「・・・」(助けて、ユーゴ……この音はまさかユーゴ!?)
リンは物陰に隠れていた

一方その頃ユーゴはフードの少年を見つけていた
「!?あのフードを冠ってる奴は……あいつがリンを!」
ユーゴはフードの少年目掛けDホイールを加速させドラム缶に立てかけられていた板の上を走りフードの少年の先に回り込んだ
「僕の邪魔をしないでくれるかな?」
フードを冠った少年はそう言った
「お前、アカデミアの人間だろ?俺とデュエルしろよ俺が勝ったらリンのことは諦めろ」
ユーゴはそう言った
「!?どうしてアカデミアの事を……まあ良いよ、僕に挑んだ事を後悔させてあげる!」
「「デュエル!」」

「先行は僕が貰うよ!僕は魔法カード《融合》を発動!《捕食植物(プレデター・プランツ)フライ・ヘル》と《捕食植物(プレデター・プランツ)スキッド・ドロセーラ》で融合!魅惑の

香りで虫を誘う、二輪の美しき花よ！今ひとつとなりて、その花弁の奥の地獄から新たな脅威を生み出せ！融合召喚！現れろ！飢えた牙持つ毒龍！レベル８、《スターヴ・ヴェノム・フュージョン・ドラゴン》！僕はリバースカードを二枚伏せターンエンド！」手札５→０

フードの少年はおそらく切り札である《スターヴ・ヴェノム・フュージョン・ドラゴン》を融合召喚してターンエンド宣言をした

「お前はやっぱり融合次元の人間か……俺のターン、ドロー！」手札５→６

「俺は《Ｓ（スピードロイド）Ｒ（スピードロイド）ベイゴマックス》を手札から特殊召喚！特殊召喚に成功した時にベイゴマックスは効果が使えるがチェーンはあるか？」

「無いよ」

「それならベイゴマックスの効果発動！《Ｓ（スピードロイド）Ｒ（スピードロイド）ベイゴマックス》の召喚、特殊召喚成功時俺はデッキからベイゴマックス以外のＳ（スピードロイド）Ｒ（スピードロイド）モンスターを手札に加える！俺は《Ｓ（スピードロイド）Ｒ（スピードロイド）タケトンボーグ》を手札に加えそのまま特殊召喚！さらに《Ｓ（スピードロイド）Ｒ（スピードロイド）タケトンボーグ》をリリース！この効果により俺はデッキから《Ｓ（スピードロイド）Ｒ（スピードロイド）赤目のダイス》を特殊召喚！《Ｓ（スピードロイド）Ｒ（スピードロイド）赤目のダイス》の効果！このカード以外のＳ（スピードロイド）Ｒ（スピードロイド）のレベルを１～６の好きな値に変更する！俺は《Ｓ（スピードロイド）Ｒ（スピードロイド）ベイゴマックス》のレベルを６に変更！俺はレベル６となった《Ｓ（スピードロイド）Ｒ（スピードロイド）ベイゴマックス》に《Ｓ（スピードロイド）Ｒ（スピードロイド）赤目のダイス》をチューニング！輝く翼神速となり天地を照らせ！現れろ！シンクロ召喚!!レベル７《クリアウィング・ファスト・ドラゴン》！」

「やっぱりシンクロ召喚なんだ～、まあ僕のドラゴンにはかなわないと思うけどね」

この時ユーリはファストドラゴンのカードを確認していないかった・・・

「そう焦るな、俺は魔法カード《スピード・リバース》を発動！効果で墓地の《Ｓ（スピードロイド）Ｒ（スピードロイド）赤目のダイス》を復活させる！俺はレベル７の《クリアウィング・ファスト・ドラゴン》に《Ｓ（スピードロイド）Ｒ（スピードロイド）赤目のダイス》をチューニング！神聖なる光たくわえし翼きらめかせ、その輝きで敵を討て！シンクロ召喚！出でよ！レベル８《クリスタルウィング・シンクロ・

ドラゴン》！」
「攻撃力３０００……でも僕のダメージは２００で済む、まだまだ勝てないよ？」
「……俺は《Ｓ（スピードロイド）Ｒパッシングライダー》と《Ｓ（スピードロイド）Ｒドミノバタフライ》でペンデュラムスケールをセッティング！神速の翼で新たな可能性を紡ぎ出せ！ペンデュラム召喚！エクストラデッキから甦れ！レベル７《クリアウィング・ファスト・ドラゴン》！」
「な、なんだ!?何が起きているんだ!?」
　ユーリは慌て始めた……自分の知らない召喚法で墓地に行っているはずのモンスターがエクストラデッキから蘇ったからだ…
「綺麗なドラゴン……」
「《クリアウィング・ファスト・ドラゴン》の効果発動！相手のエクストラから特殊召喚されたモンスターの攻撃力を０にし効果を無効化する！バトルフェイズ！《クリスタルウィング・シンクロ・ドラゴン》で《スターヴ・ヴェノム・フュージョン・ドラゴン》に攻撃！烈風のクリスタロス・エッジ！」
「くっ！」???　ＬＰ４０００－３０００＝１０００
「でも《スターヴ・ヴェノム・フュージョン・ドラゴン》の効果！融合召喚で出されたこのモンスターが破壊された時相手フィールドの特殊召喚されたモンスターを全て破壊する！」
　フードの少年は効果を発動宣言した
「チェーンして速攻魔法発動！《我が身を盾に》！ライフを１５００払い相手が発動した破壊する効果を無効にし破壊する！」ＬＰ４０００－１５００＝２５００
「なんだって!?これじゃあ、僕の負け……？」
「……《クリアウィング・ファスト・ドラゴン》で攻撃！旋風のアーリーエッジ！」
「ウワァァァァァ！」ＬＰ１０００－２５００＝－１５００　Ｈｕｇｏ　ＷＩＮ
「嘘だ……この僕が負けるなんて……」

フードの少年がそう言うと少年のデュエルディスクが光り出した
……
「何だ!?」
ユーゴは急に光ったので驚いた
「嫌だ……負けたまま帰るなんて……この僕が任務に失敗しただなんて!」
「おい!」
あたりが発光しフードの少年はどこかに消えた
「……逃げたのか?……リン!無事か!?」
「……ええ、ユーゴ、助けてくれてありがとう……」
リンはそう行って安心したのか気を失った
「……間に合ってよかった」